

| 会 議 報 告 書 | | | | | | |
|-----------|----------------------------------------------------|--------|----|-----|-------|----|
| 会 議 名 | 令和7年度第3回草津市あんしんいきいきプラン委員会 | | | | | |
| 開催日時 | 令和8年1月29日(木) 15:00~16:20 | | | | | |
| 開催場所 | 草津市役所 8階大会議室 | | | | | |
| 委 員 | 役 職 | 氏 名 | 出欠 | 役 職 | 氏 名 | 出欠 |
| | 委員長 | 佐藤 卓利 | 出席 | 委 員 | 水谷 芳江 | 出席 |
| | 委 員 | 鈴木 孝世 | 出席 | 委 員 | 幸松 喜絵 | 欠席 |
| | 委 員 | 山本 博一 | 欠席 | 委 員 | 柴田 弘三 | 出席 |
| | 委 員 | 奥野 八重子 | 出席 | 委 員 | 藤田 和孝 | 出席 |
| | 委 員 | 平野 正満 | 出席 | 委 員 | 松田 あや | 出席 |
| | 委 員 | 加藤 文子 | 出席 | 委 員 | 三露 晶子 | 出席 |
| | 委 員 | 松永 将孝 | 出席 | 委 員 | 山口 敦子 | 出席 |
| | 副委員長 | 小川 義三 | 出席 | 委 員 | 今居 功 | 出席 |
| | 委 員 | 浜崎 亜矢乃 | 欠席 | 委 員 | 中出 高明 | 出席 |
| | 委 員 | 山口 健太 | 出席 | 委 員 | 吉岡 孝治 | 出席 |
| 事 務 局 | 健康福祉部：黒川部長、宮嶋副部長 | | | | | |
| | 長寿いきがい課：堀井課長、田中課長補佐、三越課長補佐、林田副係長、松田主任 | | | | | |
| | 介護保険課：大西課長、木村参事、橋本係長 | | | | | |
| | 人とくらしのサポートセンター：田中所長、中川課長補佐、黒川副係長、山下主任 保健師、野入保健師 | | | | | |
| そ の 他 | 傍聴者 3名 | | | | | |

1. 開会および挨拶、委員紹介

<草津市附属機関運営規則に基づき、本委員会が成立していることを報告>

<健康福祉部長から挨拶>

<委員紹介>

2. 議事

(1) 草津あんしんいきいきプラン第10期計画策定に係る事業所向け調査の実施について（在宅生活改善調査、居所変更実態調査、介護人材実態調査）

| | |
|-----|-----------------------------------------------------|
| 事務局 | 資料1に基づき説明。 |
| 委員 | ○介護人材実態調査について、事業所の立場から毎回調査に答えているが、ほとんどの事業所が答えているのか。 |

| | |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | ○前は直接指定している地域密着型サービス事業所への調査だったため、未回答のところには催促をし、100%の回答を得ている。 |
| 委員 | ○常に人材が充足している事業所は少なく、調査のタイミングによって、人材の充足状況は異なる。調査の中には介護職員以外の職種についての設問がない。その他の職種も介護に携わっているので併せて調査を行ってもらおうとよい。 |
| 事務局 | ○ご意見を参考に今後検討していきたい。介護人材の確保に関する実態調査は草津市の全事業所を対象にしているの、どちらの調査に掲載するのがよいかも含め今後、検討する。 |
| 委員 | ○この調査票を回答するのに、事業所は何日程度で回答できるのか。特に居所変更調査はすぐに終わらないのではないかと。 |
| 委員 | ○デイサービスは回答するのにそこまで大変ではないが、居宅は大変だと思う。 |
| 委員 | ○項目が多いので、どのくらいの時間がかかるかとは言えないが、業務時間を調整しながら作成していく。 |
| 委員長 | ○前回の調査は100%の回収ということだが、地域密着型サービス事業所と市が密接なつながりがあるからだと思う。アンケートで意図がわからないところ等はあるか。 |
| 委員 | 質問内容が難しい部分もあるが、恐らくこういう意図だろうと判断して回答していた。わからなくて市に問い合わせたということはない。 |
| 委員 | このアンケートの結果はフィードバックしてもらえるのか。 |
| 事務局 | これら3つの調査は計画策定の基礎資料としているので、公表していない。介護人材の確保に関する実態調査の中でアウトカム指標に設定している質問項目については公表している。今後、希望があればフィードバックを検討する。 |
| 委員 | 他所の状況が見えると自分たちの位置づけもわかるため、集団指導の場でもよいのでフィードバックをしてほしい。 |
| 事務局 | 今年度は難しいかもしれないが、次年度以降検討する。 |
| 委員 | 実施時期が2月から3月下旬予定と書いてあるが、時期によって事業所の状況が変わるので、具体的に「〇月〇日」とある程度の目安があるとよい。 |
| 事務局 | 2月1日付で考えている。 |
| 委員 | 2月1日がどうかということではないが、退職予定の職員が有休消化している場合、含めてよいのかと思う。 |

| | |
|-----|--------------------------------------------------|
| 委員長 | 当調査は第10期介護保険事業計画の基礎資料となる。この調査結果を踏まえ、議論していければと思う。 |
|-----|--------------------------------------------------|

(2) 介護保険事業費等の状況について

| | |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | 資料2に基づき説明。 |
| 委員 | ○衆議院選挙の中で、ある党は社会保険料の負担が大きいことを訴えている。サービスの給付に応じて介護保険料が上がっていくことはわかる。次期計画の中で介護保険料の精査がされると思うが、介護保険料が下がることはあり得るのか。 |
| 事務局 | ○介護保険料は今後3年間の介護給付費見込みに対して算定されるため、保険料が下がる要因としては、介護給付費の見込みが大幅に下がる場合などである。現行、全国的にその自治体の介護保険の運営が成功して保険料が下がることには至っていない。以前からの基金の取り崩しによって一時的に保険料が下がることはあるが、草津市では、世代間の公平性を保つため、原則、期でたまった基金については次の期に充てているため、基金の取り崩しによる軽減はあまり見込めない。 |
| 委員長 | ○市が作成している「高齢者をささえるしくみ」にわかりやすく記載されている。高齢者の中で介護保険サービスを使う人が減った場合、保険料が下がる可能性があるが、高齢者が増え続ける現状から見て、よほどの制度変更がない限り介護保険料は下がることはないと思う。介護保険料への影響については、委員の皆様の知恵をいただければと思う。 |
| 委員 | ○この委員会の中で、最初に聞いたのは「適正な保険料を我々が考えていく」という認識であったが、今の話では、ここで議論する余地がないという印象を受けた。介護保険料は市町によって差があるのが現状で、草津市の保険料額に納得がいかない。保険料を下げる方策について委員の意見を聞いていただきながら反映されると思っていたが、今の話を聞いていると難しいのではないかな。 |
| 事務局 | ○介護保険料の決定は、国のルールで決まっているところもあるが、保険料段階の数や区分の設定、介護給付の適正化など、市町村の裁量で決めることができるところもある。また、市民の皆様のご協力も必要だが、介護予防を頑張っていただけると介護給付費を抑えることにも繋がる。また、草津市では、市町村が独自に介護保険料を財源とした |

| | |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 「市町村特別給付」を行ってサービスを充実させており、その分が保険料に反映されている。このあたりをどうするかは、皆様の意見で検討したい。 |
| 委員 | ○おっしゃるとおり草津市独自の支援策を見直せば、ある程度、保険料は下げられる。サービスをある程度削らないと、右肩上がりでは保険料が増えていく。市としては独自事業を達成したいという思いはあると思うが、介護保険料は市民の意見を反映させるべきであり、委員の皆様からも介護保険料を下げるという視点の提案があってもいいと思う。 |
| 委員長 | ○大枠は国の制度として決まっているが、今後の計画策定プロセスの中で、草津市の努力で変えていける部分は具体的に議論して考えていく必要がある。個人的に言うと、退職後は自分自身の介護保険料をいくら払っているのか自覚しなければいけなくなった。保険料は段階ごとに年額保険料も異なり、それぞれの立場によって負担感も違うので、そうしたことも考慮して議論してほしい。 |
| 委員 | ○はっきり言えることは、高齢化のスピードは速くなっていく。介護予防を総合的に行うことによって、要支援、要介護の比率を下げることは可能である。1年、2年の短期間ではわからないが、5年、10年の期間で見ると下がってくるため、給付の基礎額も下がってくる。草津モデルとして、介護予防をしっかりと取り組むことが必要だ。 |

(3) 生活支援体制整備事業について

| | |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | 資料3に基づき説明 |
| 委員 | ○「ピカッと草津」は良い取組だが、草津市全域で広がっているわけではないため、市として全域に広げていけるよう展開されるとよい。また、知らない事業所もあるため、事業所に対して更に認知を広げていく必要がある。運用の仕方も学区によって違うようなので、統一されていくといいと思う。 |
| 委員 | ○「ピカッと草津」に参加しているが、学区ごとに縛りがあり駐車場が使えない、会議に参加していない事業所は利用できないなどの課題はあるが、新聞にも取り上げられた良い取組なので、今後広がっていくことを期待している。 |
| 委員長 | ○各学区で対応が進んでいるようだが、事業所から駐車場確保が難しいという意見もあり、その対応として学区ごとに声を掛けていただき、 |

| | |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>実際にいくつかの学区では駐車場の利用が可能になった経緯があるが、そういった全体の状況を市で把握しているか。</p> |
| 委員 | <p>○社会福祉協議会の学区の会長をしているが、昨年1年間、駐車場問題に取り組んだ。コンビニや病院など多く駐車場があるところに頼みにいき、15か所の駐車場利用の許可が下りたが、実際に利用しているかどうかの確認はできていない。ごみ出し問題も取り組もうとしているが、手法を指導していただいた方が事業は進むと思う。家の中まで入ることが難しく、課題が多い。また、移動支援について、甲賀市では低料金タクシーの移動支援が始まった。草津市のまめバスはコースが決まっており、社会福祉協議会のボランティア送迎も5学区にとどまっており、全学区には行き届いていないため、移動支援について、他市のノウハウも取り入れてほしい。</p> |
| 委員 | <p>○老上学区でも3、4年前に駐車場問題を検討したが、その後、話が進んでいない。緊急を要する場合など命に関わることなので、改めて確認を行いたい。</p> |
| 委員 | <p>○第2層が一番大事な現場なので、共通認識を持てるよう、先行して取り組んでいる学区の事例など、文章の書き方を工夫してわかりやすく情報共有を行ってほしい。各学区の状況がわかるよう市や社会福祉協議会から詳しく説明してほしい。</p> |
| 委員長 | <p>○現在、14の第2層協議体がある。第1層協議体であるこの会議で、反映されるよう第2層の状況をもっと詳しく示してほしいという意見の趣旨である。資料の文章としては3行程度となっているが、情報は集まっていると思う。その情報を第1層協議体である委員会にて、各学区の違いや個性を含めて伝えていただければ、その取組を踏まえた具体的な議論ができると思う。</p> |
| 委員 | <p>○志津学区に住んでいるが、近所の高齢者のごみ出しを手伝おうと声をかけた際、嫌がられた経験がある。プライバシーの問題もあるため、手伝うのがいいと一概には言えない。いい事業だと思うので、そういう方もいらっしゃることを配慮した上で、事業が展開されればいいと思う。</p> |
| 委員長 | <p>○前回の委員会でもこの事業に関して意見があったが、プライバシーに立ち入る側面もあり、その方との人間関係の深さによって異なるため、一律には難しいと思ったところである。</p> |
| 委員 | <p>○私のマンションでも、ごみは見られたくないという方が多い。このごみ出し支援事業は、実際に回っているのか。</p> |

| | |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務局 | ○当事業は、コミュニティ支援型と直接支援型の2種類の方法で運用している。コミュニティ支援型では、支援する団体が3団体立ち上がっており、利用者とのマッチングを進めていきたい。 |
| 委員 | ○南笠東学区の第2層協議体に参加している。生活支援体制整備事業は非常に大事な事業である。学区ごとに違いがあるため、学区のニーズの違いを把握しながら学区の状況に応じた事業を展開していただきたい。特に第2層協議体について、学区の医療福祉を考える会議では、社会福祉協議会が積極的に動いてくれており、感謝しているところである。引き続き、この事業については、地域も含めて意見交換をしながら事業を推進いただきたいと思います。 |
| 委員長 | ○委員の学区で行っている特徴的なことはあるか。 |
| 委員 | ○私の学区では、地域の方々の送迎を積極的に実施しているが、高齢化により、運転手が少ない等の課題があり、それぞれが試案をしながら取り組んでいるところである。 |
| 委員長 | ○反省だが、自分の住んでいる第2層協議体に出られていない。このたび役員となったので、第2層協議体に参加できたらと思っている。また委員会でお話できたらと思う。 |

3. 閉会